

社会貢献活動

富士通グループは、 豊かで夢のある未来の実現に向けて、 多様な社会貢献活動を展開しています。

社会貢献活動の考え方

富士通グループは、豊かで夢のある未来の実現に向けて、ICTを活用し てお客様・地域社会・世界の人々と新たな価値や知恵を共創し、地球と 社会の持続可能な発展に貢献したいと考えています。

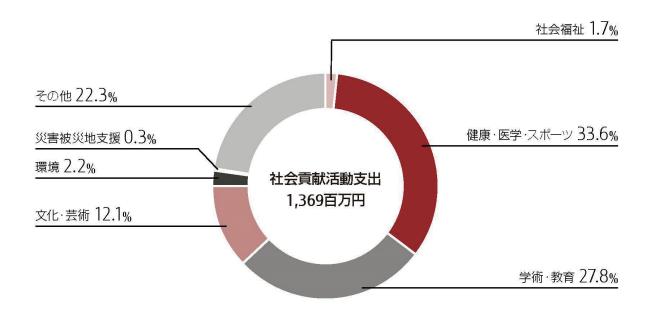
社会貢献活動においては、「ICT の裾野の拡大」「挑戦の支援」「地域と の共生」「環境」の4つを柱に、多種多様なステークホルダーと連携し、 グループ全社員が積極的に参加して活動を展開しています。

なお、活動の活性化とベストプラクティスの共有を目的に、活動の実 施記録を社内システム上で蓄積・公開し、そのデータベースを活用した 社内表彰を実施しています。



社会貢献活動に関わる支出

富士通が 2017 年度に社会貢献活動に関わる費用として支出した金額は、以下のとおりです。



194 学術・教育の振興、文化・協賛活動 200 国際支援、災害支援

198 スポーツを通じた貢献活動

社員のボランティア活動支援

富士通グループは、社会に対する社員一人ひとりの積極的な貢献活動を支援するため、ボランティア活動支援制度を整備し ています。また、各事業所が所属する地域コミュニティーをより良いものとするため、地域の特性に沿った各種活動プログラ ムを展開しています。

富士通では、2017 年度、45 名が積立休暇を取得し(延べ 111 日)、ボランティア活動を行いました。

ボランティア活動支援制度

社員のボランティア活動を支援するため、以下の制度を設けています。

- ・ 青年海外協力隊/シニア海外ボランティア参加のための休職制度:最高 3 年間
- ・ 積立休暇:年5日支給とし、最高20日まで積立可(ボランティアを含む特定の目的に利用)

富士通 JAIMS の運営



富士通 JAIMS は、富士通の提唱により非営利な教育活動を目的に設 立された財団法人で、大学院レベルの教育を提供しています。その母 体である「JAIMS」は、1972年に日米の架け橋となる人材の育成を目 的として、東洋と西洋の文化が融合するハワイに設立されました。以 降、55 カ国から約 23,000 名の卒業生を輩出したほか、2006 年には外 務大臣表彰を受賞するなど、JAIMS の活動は国際交流を促進させ、対 外的にも高く評価されてきました。



GLIK の参加者たち

2012年7月には、近年グローバルビジネスで特に重要な役割を果た

しているアジアとの連携を強化するために「一般財団法人富士通 JAIMS(以降、富士通 JAIMS)」を日本に設立し、2013 年 4 月 からは富士通 JAIMS を本部として新たな形で活動をスタートしました。バーチャルなマルチキャンパス・ネットワークという ユニークな構想の下、ハワイキャンパス(JAIMS)、アジアのパートナーとともに柔軟かつ多元的な知の連携を推進することで、 「アジア・パシフィック地域において、社会のために新しい価値を創造(イノベーション)できるひとを育み、豊かで夢のあ る未来創りに貢献する」というミッションを実現していきます。

富士通 JAIMS が提供する主なプログラムは、知識創造理論の世界的権威である野中郁次郎氏(一橋大学名誉教授)のビジョ ンに基づき開発した国際マネジメントプログラム「Global Leaders for Innovation and Knowledge: GLIK」です。「地 域に密着しながらグローバルな視点で、より善い未来を自らの手で創るイノベーションリーダーの育成」を目的に、短期間(約 3.5 カ月)にアジア・パシフィック地域(日本・米国[ハワイ]・シンガポール・タイ)で学び、変化する状況の中で本質を洞察 しながら判断し実行する力とリーダーシップを鍛えます。東アジア・東南アジアを中心とする各国からの優秀な参加者との切 磋琢磨、各分野で実績をもつ先鋭の講師陣や、各国での有識者との対話などの実践を通じ、グローバルに通じる感性・知性を 磨けるだけでなく、グローバルビジネスのフロントに立つリーダーに必要な視野と突破力を体得することができます。本プロ グラムは、2013年4月に開講して以来、年2回開催し、日本、米国、アジア・パシフィック諸国等、17カ国から、190名の 修了生を輩出しています。

富士通は、運営資金の拠出に加えて活動を支援する組織を社内に設置し、富士通 JAIMS の活動を全面的にバックアップする だけでなく、富士通の実践知・技術・ノウハウを活動に織り込むことで、富士通 JAIMS と一体となって、学術・教育の振興、 国際交流を通じた社会貢献活動を推進しています。

· 一般財団法人富士通 JAIMS www.jaims.jp

富士通奨学金制度の運営



1985年、富士通は創立 50 周年を記念して、日本の文化・社会・経 営手法を深く理解し、将来にわたって日本と世界をつなぐビジネスエ リートを育成する目的で、「富士通奨学金制度」を創設しました。累計 受給者は542名に上っています(2018年4月1日現在)。

当初は JAIMS で日本経営を学ぶ参加者への奨学金制度として始まり ましたが、現在は日本以外のアジア太平洋地域 18 カ国のビジネスパー ソンを対象に、富士通 JAIMS の GLIK プログラムに参加する機会を提供 しています。

この奨学金には、毎回多数の応募がありますが、英語力、業務経験 などに加え、自国の発展に寄与したいという意志などを踏まえて奨学 生を選定しています。富士通は、アジア太平洋諸国で事業展開する富



第 17 回情報オリンピック表彰式

士通グループ会社と連携して募集活動を共同で実施するなど、ビジネスリーダーの育成、文化交流や相互理解の促進を通して、 自国や自コミュニティーへの貢献を考える人たちに奨学金を授与し、国際地域社会に根付いた教育の提供を通して社会に貢献 しています。

・ Fujitsu Scholarship(英文サイトのみ) http://www.fujitsu.com/scholarship/

「数学オリンピック」「情報オリンピック」の支援



富士通は、公益財団法人「数学オリンピック財団」および特定非 営利活動法人「情報オリンピック日本委員会」の活動を支援し、将 来の社会の発展を担う貴重な人材の発掘・育成に寄与しています。

数学オリンピック財団は、国際数学オリンピック (IMO) への日 本代表選手の選抜、派遣を通じて数学的英才の発掘および伸長を図 るとともに、国際的視野での数学教育発展に貢献することを目的と して、1991年に設立されました。富士通は、同財団の設立にあたっ て、他2社・1個人とともに基本財産を拠出しました。

一方、情報オリンピック日本委員会は、日本の数理情報科学分野 を支える人材養成に寄与することを目的として 2005 年に設立さ れ、中高生を対象としたプログラミングコンテストである国際情報 オリンピック(IOI)への参加および協力事業を展開しています。富 士通は賛助会員として、その運営を支援しています。



第 17 回情報オリンピック表彰式

高専生を対象としたプログラミングコンテストを支援



富士通は、全国高等専門学校プログラミングコンテストを特別協賛企業として 支援し、「富士通企業賞」を設け、受賞チームに富士通製パソコンを贈呈していま

2017 年度は運動が苦手な人でも室内で簡単にカーリングを楽しめるシステム を開発した阿南工業高等専門学校に富士通企業賞を贈りました。

今後も若き ICT 技術者の育成を支援していきます。



第28回全国高等専門学校プログラミングコンテス トにて「富士通企業賞」を受賞された阿南工業高等 専門学校の皆さん

生徒が「探求」という学び方を実践する「クエストエデュケーション」への協賛



(ICTの裾野拡大



挑戦の支援

富士通は、学びを通して一人ひとりが夢に挑戦できる未来を、小中高生のみなさまとともに創っていきたいと考え、全国 150 校約2万人の小中高生が、主体的、体験的に学ぶアクティブ・ラーニング型の教育プログラム「クエストエデュケーション企 業探究コース」に協賛しています。

このプログラムは、主体的で創造的な人材育成を目的としたものです。生徒さんが企業のインターン生として、実在の企業

から出されるミッションにチームで挑み、自ら感じ、考え、表現していく中で、 自分自身の得意なことや役割を認識していくことを目指しています。

富士通が提示した 2017 年度のミッションは「未来のデジタル社会で人間が 人間らしく生きるために欠かせない富士通の新サービスを提案せよ!」。この ミッションに真剣に取り組む生徒さんを応援してきました。

この活動を通じて、次世代を担う課題解決型の人材輩出に貢献しています。



QUEST CUP2018 参加者の皆さん

・参考 QUEST CUP

http://www.questcup.jp/2018/index.php

村地域にデジタル教育を導入





地域との共生



挑戦の支援

南アフリカの地方農村コミュニティの子供たちがより 良い未来を手にすることができるように、富士通はシズ エ・アフリカ IT グループ(Sizwe Africa IT Group)と協力 し、富士通製品を搭載した自己完結型の教室を開発して います。「エデュスマート・グリーン・センター」 (Edu-Smart Green Center) は、セキュリティに優れた最 先端のコンピュータを備え、各ユニットが完全な自己完 結型となっている教育施設です。



教室の外観



教室内の様子

南アフリカ僻地の農村では学校の数や教育機会が限られており、5~6歳の子どもたちの多くにとって、最終的な高等教育の 修了(15~17歳)が非常に困難です。

ユニットはコンテナ型で、太陽光発電を動力源としています。スマートでインタラクティブなタッチスクリーン式ホワイトボードが付属しており、教師が追加の学習教材を補完するために使うことができます。この真に持続可能なソリューションは、建設開始からわずか 10 週間ですべての機能を使用することができます。富士通は技術と共創を通じて南アフリカの教育・社会・経済の成長を促進し、コミュニティにとってより良い未来の実現を可能にしています。

オーストラリアのリコンシリエーション・アクション・プラン



オーストラリアでは、先住民と非先住民の間に、医療・社会・経済の面で大きな格差が存在します。オーストラリア社会がこうした格差を埋め、相互理解を促進するための取り組みを「リコンシリエーション」(調和) といいます。

富士通のリコンシリエーション・アクション・プラン (RAP) では、当社のオーストラリア事業において、アボリジニやトレス海峡諸島民(先住民) の方々に機会を提供する方法を定めています。2016 年、富士通オセアニアは「ダイバーシティ&インクルージョン審議会」を設置し、オーストラリア社会を反映するために職場の多様性を改善・向上する取り組みについて議論を開始しました。その後、戦略的顧客のほか、現地の先住民コミュニティや非営利団体「リコンシリエーション・オーストラリ



先住民への支援

ア」(Reconciliation Australia)の代表者との協議などを経て、2年以上を掛けて RAP を策定しました。当社は、サプライチェーンにおいて先住民が運営する企業を増加させることにコミットしており、サプライヤー数を2倍にするとともにサプライヤーからの調達額を17倍に増やしました。

こうした取り組みは、当社のダイバーシティとインクルージョンに関して重要な節目となるものです。当社は、オーストラリアの先住民と非先住民が将来の繁栄と利益を平等に分け合えるような、持続可能な未来社会づくりを支援するために積極的に参画していきます。

「富士通キッズプロジェクト:夢をかたちに」



「富士通キッズ:夢をかたちに」子ども向けサイトは以下をご参照ください。

http://jp.fujitsu.com/about/kids/

文化・協賛活動





富士通の文化・協賛活動は以下をご参照ください。

http://www.fujitsu.com/jp/about/resources/advertising/event/index.html

スポーツを通じた貢献活動

富士通グループでは、スポーツを通じた健全な社会貢献活動を展開しています。陸上競技部、アメリカンフットボール部「フロンティアーズ」、女子バスケットボール部「レッドウェーブ」からなる富士通のスポーツ活動は、スポーツを通じて感動を共有し、より豊かな社会の創造と、人々の「心」と「身体」の健康増進に貢献します。

各運動部の活動詳細は下記 Web サイトをご参照ください。

・ スポーツ活動:

http://sports.jp.fujitsu.com/?=featuredlink

· 陸上競技部:

http://sports.jp.fujitsu.com/?=featuredlink

アメリカンフットボール部:

http://sports.jp.fujitsu.com/frontiers/

・ 女子バスケットボール部:

http://sports.jp.fujitsu.com/redwave/

富士通スポーツの社会貢献活動





陸上競技部

活動拠点を置く千葉県では「ちば夢チャレンジかなえ隊」として、千葉県教育委員会と協力し、子どもたちがスポーツへの夢や憧れを抱けるよう、公立小学校および中学校での体育・スポーツを通じた交流などに取り組んでいます。





2017 ちばスポーツ夢フェスタ

アメリカンフットボール部「フロンティアーズ」

活動拠点を置く川崎市から 2006 年に「かわさきスポーツパートナー」に認定され、スポーツの推進および川崎市のイメージアップに貢献しています。川崎市内の小学生を対象に、安全で気軽に取り組めるフラッグフットボールを体育の授業で指導する「ふれあい教室」などを行い、アメリカンフットボールの普及に取り組んでいます。





ふれあい教室 (アメフト部)

女子バスケットボール部「レッドウェーブ」

活動拠点を置く川崎市から 2004 年に「かわさきスポーツパートナー」に認定 され、スポーツの推進および川崎市のイメージアップに貢献しています。川崎市 の小学生を対象に、体育の授業で実技指導を行う「ふれあい教室」を実施し、ス ポーツ振興とバスケットボール界の底辺拡大に努めています。





ふれあい教室(女子バスケットボール部)

川崎フロンターレの活動を支援



川崎フロンターレは、より地域に密着した市民クラブを目指して日頃から活動しています。また、2011年の東日本大震災直 後に「Mind-1 ニッポンプロジェクト」を立ち上げ、被災地の中長期的な復興支援活動に継続的に取り組んでいます。2015年9 月には、支援活動を行ってきた陸前高田市と「高田フロンターレスマイルシップ」という友好協定を結びました。支援するだ けでなくお互いに支え合い笑顔になれる関係を目指し、これからも活動していきます。

194 学術・教育の振興、文化・協賛活動 200 国際支援、災害支援

国際支援、災害支援

飲料販売を通じた熱帯雨林再生活動の支援



富士通グループでは、社会貢献・環境活動の取り組みの一環として、富士通のプライベートブランド飲料を社員向けに販売 し、その売上の一部を「富士通グループ・マレーシア・エコ・フォレストパーク」における熱帯雨林再生活動に充てています。 同飲料は 2009 年の販売開始から 2017 年度末までの累計で約 320 万本を売り上げ、活動推進に寄与しています。

グループ社員による社会貢献活動



地域との共生

富士通グループでは、多くの事業所でペットボトルキャップやプリペイドカード、切手、本、CD などを回収し、それらの 収益金をポリオワクチンや緑化の苗木、国際協力への寄付に活用するなど、グループ各社の社員が身近な社会貢献活動に自主 的に取り組んでいます。

南アジアでボランティア活動を展開する国際 NGO「シャプラニール」(市民による海外協力の会)を支援する活動として、 書籍・DVD を回収・売却する「ステナイ生活」を継続的に実施しています。

赤十字とのチャリティーパートナーシップ

富士通は長年にわたって慈善団体と協力してきました。2017年、当社は、全社の力 を1カ所に結集させることを決定しました。

富士通アメリカ にとって初となる公式チャリティ・パートナーを選択するにあたっ て、公正で透明性がある確固とした手続きを定めました。最終決定のための投票では、 米州の全従業員に投票権が与えられました。

2017年以来、富士通は、新たなマッチファンディング制度などにより、13万8,000 ドル以上の義捐金を積み立ててきました。2018年5月、当社は、災害支援キットが危 険な水準まで減少していた米国南西部に、1,200 個以上の災害支援キットを提供しま した。キットは300人のボランティアによって組み立てられ、防災用品と、最終的な 受取人が希望を持てるよう励ます手書きのメッセージが同封されました。こうした取 り組みによって、富士通は 2018 年 7 月に米国赤十字社からシルバー・パートナー・ アワード を受賞しました。

富士通は 2018 年も、一年間を通して個人活動やチーム活動、資金調達など赤十字 社との活動を引き続き推進し、赤十字社がその使命を果たせるよう支援していきます。





赤十字イベントの様子

インドネシアにおける熱帯雨林の保全活動への支援を実施



富士通グループは、一般社団法人バードライフ・インターナショナル東京を通じて、インドネシア・スマトラ島の熱帯雨林「ハラパンの森」の保全活動を行う現地の NPO ブルーン・インドネシアへの支援を実施しました。

「ハラパンの森」はスマトラ島南部に位置し、東京都のおよそ半分の広さの広大な森林です。インドネシアで初めて生態系修復コンセッション制度(Ecosystem Restoration Concession)(注)を活用したフィールドで、希少な生物が生息しており、商業伐採跡地に生じた二次林を従来の生態系に回復する活動が行われています。本活動は、森林の炭素固定源としての機能を高め、地球温暖化を抑制するうえでも重要な意味を持っています。



ハラパンの森

現在、「ハラパンの森」では大規模な森林火災や違法伐採に対処することが喫緊の課題となっており、森林パトロールの実施や情報の集約には工数と時間を要するため、本来注力すべき森林再生に掛けるリソースが限られてきています。そこで当社グループは、パトロール作業の効率化を図るために、パトロールで得た現場の情報をその場で入力できるICT端末購入のため330万円の寄付を行いました。

今後も当社グループは、森林の保全・再生活動を支援し、気候変動の緩和に貢献していきます。

- (注) 生態系修復コンセッション制度: 非木材林産物の生産など、伐採を伴わない森林の使用権。
- 【プレスリリース】インドネシアにおける熱帯雨林の保全活動への支援を実施 http://pr.fujitsu.com/jp/news/2018/03/28.html

自然災害による被害への支援



富士通グループは、自然災害による被害の復興に役立てていただくため、義捐金寄付などの支援を行っています。 2017 年度は 7 月に発生した九州北部豪雨、2018 年度は 7 月に西日本を中心に襲った豪雨による被災地に向け、地方自治体に義捐金を寄付しました。

2018年度

「平成30年7月豪雨」被害への支援について http://pr.fujitsu.com/jp/news/2018/07/10.html

2017 年度

・九州北部の豪雨による被害への支援について http://pr.fujitsu.com/jp/news/2017/07/14-2.html

2016 年度

- ・ 熊本地震 震災復旧・復興支援に向けてクラウドサービスを提供 http://pr.fujitsu.com/jp/news/2016/05/2-1.html
- ・ 熊本地震被害への支援について http://pr.fujitsu.com/jp/news/2016/04/19-1.html
- ・東日本大震災復旧・復興支援活動について
 http://www.fujitsu.com/jp/about/csr/recovery/index.html